

## 成果の説明書

(氏名) 山本芳弘	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 科研費研究課題の推進</p> <p>科研費研究課題「再生可能エネルギー時代のエネルギー需給システムのための経済制度の確立」(2021-2024年度)について、アルゴリズムの詳細検討、シミュレーションのためのコードの改良、ならびに新たな理論分析の3点を実施しました。</p> <p>前年度までに、家庭のような電気の小規模な生産者と消費者から成る集団に対して、それを2つのグループに分けて売買価格を設定するアルゴリズムを提案していました。今年度は、第1に、細部の検討を加えて国際会議で発表しました(Yamamoto, Y., “Pricing electricity for a group of producers and consumers, aiming for local consumption toward efficient use of renewable energy”, 40th USAEE/IAEE North American Conference, November 6-8, 2023, Chicago, USA.)。第2に、前年度に作成したシミュレーションのためのコードを、種々の結果を分析できるように大幅に改良しました。模擬データによる検証を重ねて、実用性を高めました。実際に使用するデータの入手について、米国企業に相談して条件等を検討しました(科研費残高と為替相場を勘案した結果、次年度に購入する予定です)。第3に、価格設定に関する理論を再検討しました。前年度までは私の先行研究結果を利用することにしていました。新たに、グループ内の需給バランスをより反映できる方法を考案しました。</p> <p>(2) 研究奨励費課題の実施</p> <p>研究奨励費課題「大学のサステナビリティ経営に関する研究—「脱炭素化」を中心に」(2023年度)の分担研究を実施しました。担当したのは、「大学として研究面から脱炭素化をどのように推進または支援しているかを明らかにすること」です。これについて、全国の大学を対象にしたアンケート調査のための質問票作成と、訪問インタビューを実施しました。</p> <p>アンケート質問票の作成では、7つの大きな質問項目とその下の細分項目を作成しました。ある程度予想していた通りのアンケート回答が得られました。その結果にウェブサイトでの追加調査を加えて、訪問インタビューの対象大学を選定しました。千葉商科大学(千葉県市川市)を実際に訪問し、教員と担当職員にインタビューしました。インタビュー録音を編集して内容を文章化しました。本研究成果は次年度に報告する予定です。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>特にありません。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 科研費研究課題「再生可能エネルギー時代のエネルギー需給システムのための経済制度の確立」の推進</p> <p>次年度が最終年度であるため、まず、残されたシミュレーションを実施します。コードは作成済みなので、データを問題なく入手できれば次年度初めには完了する見込みです。シミュレーション結果を考察し、研究結果をまとめます。研究成果を論文にして投稿します。</p> <p>(2) 新しい科研費研究課題の設定</p> <p>上記の科研費研究課題について、今後の課題を検討します。それに対する研究アプローチの可能性を判断するために、関連する理論を調査します。その結果に基づいて、新たな科研費研究課題を立ち上げる予定です。</p>	